

【人口・町内居住者】

楢葉町人口	6,786名 (2,960世帯)	(令和2年4月30日現在)
うち町内居住者数	3,990名 (2,014世帯)	(町内居住率: 58.8%)

＜町民居住地分布＞

県内	6,278名 (92.4%)	県外	508名 (7.6%)
いわき市	2,459名	茨城県	141名
郡山市	56名	埼玉県	69名

○学校教育の現状と取組み

- 小学校と中学校は同一の校舎（中学校校舎）で連携教育を実施。

	震災前 (H22年度末)	町内再開 (29年4月)	現 状 (R2年4月)
小・中学校	686人	105人	136人
うち小学生	432人	62人	98人
うち中学生	254人	43人	38人
こども園	247人	38人	97人



【楢葉独自の新たな取組み】

▶ 中学生によるまちづくりチーム「中学生室」の結成

- 町役場に「中学生室」を設置し、中学生メンバーが、町との意見交換や、行政・事業所等と連携した取組みを実践。



▶ 中学生のキャリア教育（模擬会社）

- 中学生が模擬会社を設立し、町の特産品を活用した商品を開発。
東京の福島県アンテナショップで販売体験学習を実施。



○生涯学習環境の整備

【楢葉町地域文化交流拠点「楢葉まなび館」】

- 楢葉南小学校の校舎を活用し、「楢葉まなび館」を平成28年7月にオープン。生涯学習の拠点として、町民が様々な活動に利用。



【活動サークル】

- わらじ組
- 和布細工工房ほのぼの
- なにかし隊
- 藍染会
- 天神太鼓
- 天神龍舞（よさこい）
- 華鶴会（日本舞踊）
- 老人クラブ連合会
- など

【利活用事例】



○まちづくり会社「ならはみらい」の取組み

【楢葉町活性化協議会】

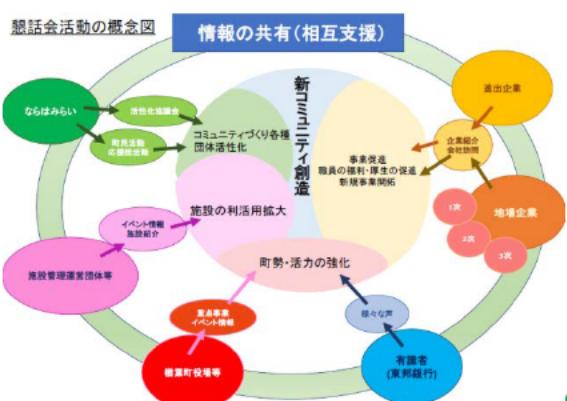
- 楢葉町内の企業・団体が連携し、町の活性化に向けた横断的な取り組みを行う組織を平成29年4月に設立。
- 「みらい輝く、ならはまちへ！」をスローガンに、町民による活動の活性化や交流拡大、ふるさととのきずな継続のために取組む。



＜町主催イベントに協力＞

【新たなコミュニティ形成のための懇話会】

- 町の活性化を担う各種団体や町内に立地する企業・事業所等が集う懇話会を平成31年4月に設立。
- 様々な観点・角度からの意見交換や、情報共有、相互支援により、新たなコミュニティ形成につなげる。



ならは復興MAP



ならはスカイアリーナ(屋内体育施設)

- 檜葉町総合グラウンド内に、体育馆及び屋内プール、フィットネスジム、キッズルームを有する屋内体育施設が完成。
- 平成31年4月14日オープン



ならはCANvas

- 平成30年7月30日オープン



笑ふるタウンならは

- 災害公営住宅140戸ほか宅地分譲地を販売中(2工区)
- 商業施設は、平成30年6月26日オープン
- ふたばりカーレ、蒲生歯科が開業中



道の駅ならは

- 温泉保養施設とフードコートが完成し、平成31年4月25日リニューアルオープン
- 物産館はR2年6月中旬オープン予定



水稻育苗センター

- 良質な苗を育て農家に販売支援を行う
- 100ha、2万箱の処理能力を有する
- 平成31年4月16日完成



カントリーイエラベーター

- 米の乾燥、貯蔵、調製、出荷までを一貫して行う
- 300ha分の水稻を処理できる
- 平成31年4月16日完成



木戸川の鮭漁の再開

- 平成28年度に鮭ふ化施設を復旧し稚魚の放流を実施



檜葉南工業団地

- 新たな企業の誘致
- 檜葉遠隔技術研究センター



Jヴィレッジ駅

- 平成31年4月20日開業(令和2年3月常設化)



竜田駅周辺整備

- 竜田駅東側
 - ・ 東西自由通路・橋上駅舎の整備 ⇒ 令和2年夏供用開始予定
 - ・ 駐車・乗降場がある駅前広場の整備
 - ・ 廃炉関連事業所及び宿舎等を整備
- 竜田駅西側
 - ・ まちづくり計画の策定



井出川～井出地区海岸

- 堤防復旧工事が完了(R2.3月)



天神岬スポーツ公園

- 平成28年3月遊具リニューアル

洋上風力発電



天神温泉しおかぜ荘

- 平成27年9月再開



木戸川河口部

- 堤防復旧工事が完了(H30.3月)



新生Jヴィレッジ

- 平成30年7月28日に一部営業再開。同年9月に全天候型練習場オープン
- 平成31年4月20日全面再開(イベントへ2万人が来場)